

ビベスピエアロスフィア 120 吸入
に係る
医薬品リスク管理計画書

アストラゼネカ株式会社

ビベスピエアロスフィア 120 吸入に係る 医薬品リスク管理計画書(RMP)の概要

販売名	ビベスピエアロスフィア 120 吸入	有効成分	グリコピロニウム臭化物/ホルモテロールフマル酸塩水和物
製造販売業者	アストラゼネカ株式会社	薬効分類	87225
提出年月日		令和 8 年 7 月 17 日	

1.1. 安全性検討事項		
【重要な特定されたリスク】	【重要な潜在的リスク】	【重要な不足情報】
心血管系事象	喘息に関連した死亡、入院及び挿管	なし
重篤な血清カリウム値の低下		
1.2. 有効性に関する検討事項		
なし		

↓ 上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要
通常の医薬品安全性監視活動
追加の医薬品安全性監視活動
なし
3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要
なし

↓ 上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要
通常のリスク最小化活動
追加のリスク最小化活動
なし

各項目の内容は RMP の本文でご確認下さい。

医薬品リスク管理計画書

会社名：アストラゼネカ株式会社

品目の概要			
承認年月日	2019 年 6 月 18 日	薬効分類	87225
再審査期間	6 年	承認番号	30100AMX00005000
国際誕生日	2016 年 4 月 25 日		
販売名	ビベスピエアロスフィア 120 吸入		
有効成分	グリコピロニウム臭化物/ホルモテロールフマル酸塩水和物		
含量及び剤形	1 回噴霧中にグリコピロニウム臭化物を 9.0 μ g（グリコピロニウムとして 7.2 μ g）及びホルモテロールフマル酸塩水和物を 5.0 μ g（ホルモテロールフマル酸塩として 4.8 μ g）含有する吸入エアゾール剤		
用法及び用量	通常、成人には、1 回 2 吸入（グリコピロニウムとして 14.4 μ g、ホルモテロールフマル酸塩として 9.6 μ g）を 1 日 2 回吸入投与する。		
効能又は効果	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解（長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β 2 刺激剤の併用が必要な場合）		
承認条件	医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。		
備考			

変更の履歴

前回提出日

令和 7 年 8 月 4 日

変更内容の概要：

1. 「1.1 安全性検討事項（心血管系事象）」の「医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由」の記載を変更
2. 「2 医薬品安全性監視計画の概要」の「追加の医薬品安全性監視活動」から、製造販売後データベース調査（心血管系事象）を削除
3. 「5.1 医薬品安全性監視計画の一覧」の「追加の医薬品安全性監視活動」である製造販売後データベース調査（心血管系事象）に係る記載を更新

変更理由：

- 1.2.3. 製造販売後データベース調査終了に伴う変更

1 医薬品リスク管理計画の概要

1.1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク	
心血管系事象	
	重要な特定されたリスクとした理由： 慢性閉塞性肺疾患（以下 COPD）患者を対象とした主要な第Ⅲ相 24 週間試験（PT003006 試験、PT003007 試験及び PT003014 試験）の併合データの解析において、心房細動の発現割合は、本剤群 0.6%（9/1588 例）、プラセボ群 0.3%（2/678 例）であり、頻脈の発現割合は、本剤群 0.3%（5/1588 例）、プラセボ群 0.1%（1/678 例）であった。 心血管系事象は、本剤の有効成分に含まれる長時間作用性抗コリン薬（以下 LAMA）において既に知られている催不整脈作用に関連して発現する可能性があると考えられ、また、類薬において当該事象の発現リスクの増加が懸念されている¹⁾²⁾ことから、本剤においても重要な特定されたリスクに設定した。 参考文献 1) Singh S et al. JAMA. 2008; 300: 1439-1450 2) Singh S et al. BMJ. 2011; 342: d3215
	医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由： 【内容】 ・通常の医薬品安全性監視活動 【選択理由】 <u>本剤の臨床試験結果および COPD 患者におけるこれまでの知見より一定の情報が得られていることから、使用実態下における通常の医薬品安全性監視活動により、心血管系事象の発現状況について国内外での知見の収集に努め、定期的な評価を行う。</u>
	リスク最小化活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常のリスク最小化活動として、電子化された添付文書（以下「電子添文」という。）の「重大な副作用」「合併症・既往歴等のある患者」および「併用注意」の項、ならびに患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 【選択理由】 使用上の注意に関する情報を医療従事者に提供することにより、適正使用に関する理解を促すため。

重篤な血清カリウム値の低下

重要な特定されたリスクとした理由：

本剤の主要な第Ⅲ相臨床試験（PT003006 試験、PT003007 試験及び PT003014 試験）の併合データにおいて、血清カリウム値の CTCAE Grade がベースラインの Grade0 から試験期間中に Grade3 に上昇した被験者が、本剤群およびホルモテロールフマル酸塩（以下 FF）群でのみ認められたこと（本剤群の被験者の 0.2% [3/1556 例]、FF 群の被験者の 0.1% [1/1344 例]）、また、有効成分に FF を含む類薬の国内市販後の使用経験において、重篤な血清カリウム値の低下が認められた症例が報告されていることから、本剤においても重要な特定されたリスクに設定した。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

本剤の臨床試験結果および FF と血清カリウム値の低下に関するこれまでの知見より一定の情報が得られていることから、使用実態下における通常の医薬品安全性監視活動により、重篤な血清カリウム値の低下の発現状況について国内外での知見の収集に努め、定期的な評価を行う。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

通常のリスク最小化活動として、電子添文の「重大な副作用」「合併症・既往歴等のある患者」および「併用注意」の項、ならびに患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。

【選択理由】

使用上の注意に関する情報を医療従事者に提供することにより、適正使用に関する理解を促すため。

重要な潜在的リスク	
喘息に関連した死亡、入院及び挿管	
	重要な潜在的リスクとした理由： 本剤の配合成分のひとつであるホルモテロール（長時間作用性 $\beta 2$ 刺激薬：以下 LABA）の類薬であるサルメテロールに関して、米国で実施された大規模試験 SMART（Salmeterol Multicenter Asthma Research Trial）において、標準的な喘息療法に加えてサルメテロールの投与を受けた喘息患者では、プラセボ投与を受けた患者と比較して喘息関連死のリスクが高いことが示された¹⁾。 本リスクは喘息患者における LABA 単剤による喘息関連の重篤な副作用の発現リスクの増加であるが、本剤が適応となる COPD 患者においては、気管支喘息を合併している患者も存在することが予測され、このような患者では気管支喘息の治療が適切に行われる必要があることから、注意喚起のために重要な潜在的リスクとして設定した。 なお、気管支喘息患者における本剤の安全性及び有効性は確立されておらず、本剤に気管支喘息の適応はない。 参考文献 1) Nelson HS et al. Chest 2006; 129: 15-26
	医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由： 【内容】 ・通常の医薬品安全性監視活動 【選択理由】 使用実態下において喘息に関連した死亡等が発現した場合に、当該事象に関する詳細情報を収集するため。
	リスク最小化活動の内容及びその選択理由： 【内容】 通常のリスク最小化活動として、電子添文の「効能又は効果に関連する注意」および「合併症・既往歴等のある患者」の項に記載して注意喚起する。 【選択理由】 使用上の注意に関する情報を医療従事者に提供することにより、適正使用に関する理解を促すため。

重要な不足情報
なし

1.2 有効性に関する検討事項

なし

2 医薬品安全性監視計画の概要

通常の医薬品安全性監視活動
通常の医薬品安全性監視活動の概要： 副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）
追加の医薬品安全性監視活動
<u>なし</u>

3 有効性に関する調査・試験の計画の概要

なし

4 リスク最小化計画の概要

通常のリスク最小化活動
通常のリスク最小化活動の概要： 電子添文及び患者向医薬品ガイドによる情報提供
追加のリスク最小化活動
なし

5 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

5.1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常の医薬品安全性監視活動				
副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）				
追加の医薬品安全性監視活動				
追加の医薬品安全性監視活動の名称	節目となる症例数／目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
市販直後調査	該当なし	販売開始から 6 ヶ月後	終了	作成済（2020 年 4 月）
製造販売後データベース調査〔心血管系事象〕	曝露群 38 例 対照群 5,138 例	再審査申請時	終了	作成済（2026 年 6 月）

5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

なし

5.3 リスク最小化計画の一覧

通常のリスク最小化活動		
電子添文及び患者向医薬品ガイドによる情報提供		
追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名称	節目となる予定の時期	実施状況
市販直後調査による情報提供	販売開始から 6 ヶ月後	終了